

会告

■先端芸術音楽創作学会運営体制

運営委員

事務局

会長：小坂直敏 (東京電機大)

副会長：古川聖 (東京芸大)

広報 (研究会)：寺澤洋子 (筑波大)

広報 (イベント)：有馬純寿 (帝塚山学院大), 柴山拓郎 (東京電機大)

広報 (Web)：喜多敏博 (熊本大)

会計：森威功 (東京芸大)

会報：安藤大地 (首都大)

一般

石井紘美 (英国シティ大), 今井慎太郎 (国立音大),
中村滋延 (九州大), 西野裕樹 (シンガポール国立大),
沼野雄司 (桐朋学園大), 水野みか子 (名古屋市立大),
Cathy Cox (玉川大),
Michael Chinen

在外国メンバー

Mara Helmuth (University of Cincinnati, U.S.A.),

Karen Wissel (Growth in Motion, Inc., U.S.A.),

Mark Battier (Sorbonne, France)

■電子ジャーナルへの投稿を歓迎します

原稿は原稿執筆要領に沿って書いていただき、編集委員まで送付して下さい。また、詳細については編集委員までお問い合わせ下さい。

編集委員：安藤大地 [dandou\[at\]sd.tmu.ac.jp](mailto:dandou[at]sd.tmu.ac.jp)

原稿は以下のカテゴリに分類されます。

- 原著論文 研究論文。査読を経て採録されたものが掲載されます。
- 研究報告 研究の予稿。査読はなし。通常の学会の研究会の予稿に相当。
- 会議報告 国際会議等の参加報告。
- 解説 既に知られている重要な技術、概念、研究動向を読者にわかりやすく伝える記事。
- 連載 何回か継続して綴られる原稿。解説や報告などさまざまな区分が個々の原稿にはあるが、全体を連載として区分する。
- インタビュー 作曲家、音楽家へのインタビュー。
- 書評 読者へ紹介したい単行本の感想、評論など。
- 報告 自身のあるいは研究室の活動報告など。
- 作品解説 自作品の哲学、用いているシステム紹介、音楽理論などを作品の中で特筆すべき内容を解説する。プログラムノートを発展させ、より学術的にしたもの。

このほかのカテゴリも必要に応じ、作成したいと考えています。上記に当てはまらないものは編集委員にご相談下さい。

■研究会の参加費について

非会員の場合は研究会参加が有料となりました。参加費 500 円を徴収いたします。

■研究会への発表募集

研究会の講演発表を募集します。詳細は別途ご案内いたします。内容は電子ジャーナルの原稿のカテゴリと同等なものです。また、それ以外の話題がありましたら、運営委員までご相談ください。

■第 12 回研究会

日時：2012 年 7 月 22 日 (日) 13:20 - 17:10

会場：洗足学園音楽大学 2 号館 2 階 2202 室

プログラム

○ 1 件目

講演タイトル：コンピュータ音楽言語の開発：デザインを通じた研究 (Research through Design) として
発表者：西野 裕樹 (シンガポール国立大)

○ 2 件目

講演タイトル：スマートフォンやタブレット上で実行可能な音響プログラミングツールについての調査
発表者：喜多 敏博 (熊本大)

○ 3 件目

講演タイトル：ソニフィケーションとプロジェクト transnd について
発表者：森本 洋太 (英国バーミンガム大)

○ 4 件目

講演タイトル：招待講演 Spatialisation in early Electroacoustic music: Sound examples presented in 4 or 5 channels
発表者：Marc Battier (パリソルボンヌ大)

○ 5 件目

スペシャルセッション：アジアの電子音楽データベースについて
水野みか子 (名古屋市立大)：アジア電子音響音楽のデータベース - 現状と JSSA の課題
Marc Battier (パリソルボンヌ大)：Databases devoted to electroacoustic music studies in East Asia: the EMSAN databases
川崎弘二 (無所属)：日本の電子音楽のデータベースについて

編集後記

JSSA が発足して 4 年目となり、研究会も 12 回目となりました。今回から公募セッションを始めております。また、今回は仏パリソルボンヌ大から Marc Battier さんを招き、Spatialization についての招待講演をしていただきます。また、スペシャルセッションとして水野さん、Battier さん、川崎さんのお三方による、アジアの電子音楽データベースに関するそれぞれの研究成果の発表がされます。

本年度も JSSA をよろしく願っています。

(会報編集担当:安藤)